

色彩豊かな作品の前で撮影時の状況などを語る安倉さん（中央）＝南砺市福光美術館

癒やしの風景 色彩豊か

福光美術館 安念さん写真展開幕

南砺市本町（井波）の写真
家で、北日本新聞砺波支社力
ルチャ・教室講師の安念余志
子さんの作品展「彩・光・風」

「癒やしの景色」が29日、同市福光美術館で開幕した。県内外の自然の風景を、一瞬の好機を逃さず色彩豊かに切り

に、赤や黄に色付いた葉が映り込み、まるで水に絵の具が溶けているように見える作品や、南砺市の医王山と八乙女

福光美術館主催。北日本新聞
社共催。期間中は同館で、モ
デル撮影会（5月3日）や写
真添削教室（同22日）、「写

取った作品が
来館者の注目
を集めてい
る。6月5日

山から、それぞれ散居村を撮影した写真をびょうぶに立てた作品などが並ぶ。

真を五箇山和紙にプリントし
よう」(同28日)などのワ
クショップ、ハーブのコンサ
ート(同8日)などがある。

度も足を運び、じっくり鑑賞してくれればうれしい」とあ

問い合わせは同館、電話07
63(52)7576。

溶接の技術競う

に毎年開催している。「手溶接部門」と半自動機器を使つ

高岡市競技会

A welder wearing a red cap and a light-colored protective suit is focused on welding a bright, glowing seam on a large metal structure. Sparks are visible around the welding point.

29日、高岡市八ヶの富山職業能力開発促進センター（ボリテクセンター富山）であり、

7
ノ

県内の鉄工会社など7事業所の42人が鉄の金属板を溶接する技術を競つて一等賞。

9-791

技術を競うか、宜真
技術の向上と伝承を目的

的

いさつ。米田聰市ブランド戦略部長と向川静孝市議会副議長、武田慎一県議が作品やこれまでの活動をたたえた。安念さんによるギャラリートー





吹上御所の草花を柔らかい色調で描いた水彩
画が並ぶ会場=富山県南砺市福光美術館で

皇居の庭 四季を描く



富山県南砺市福

光美術館で開かれている。同
展覧会は北陸初開催で、天
皇、皇后両陛下の庭を彩る草
花を織細なタッチで描いた百
点を展示している。八月
三十日まで。

安野さんは島根県生まれ。
「ふしきなえ」や世界各國の
風景を描いた「旅の絵本」な
ど数多くの絵本を発表し、一
九八四年に国際アンデルセン
賞を受賞。二〇一二年に文化
功労者に選ばれ、一一一二
五七六へ。(渡辺健太)

画家で絵本作家の安野光雅
さん(九〇)=写真=が皇居吹上
御所の草花を描
いた水彩画展
「御所の花」が、

後年の機会になる可能性もあ
る。

会場では、春は桜、夏はヒ
マワリというように多様な草
花を四季別に展示。柔らかい
色使いで地面から芽を出すツ
クシの群生や物寂しげな灰色
の背景にロウバイの黄色の花
が鮮明に浮かび上がるよう
に描いた作品などが並んでい
る。

観覧は一般八百円、高大生
五百円、小中学生無料。七月
二十四日には「皇居の植物」
をテーマにした中田政司・富
山県中央植物園長のセミナー
もある。問い合わせは、福光
美術館=電0763(52)7

七日まで。
安野さんは島根県生まれ。
「ふしきなえ」や世界各國の
風景を描いた「旅の絵本」な
ど数多くの絵本を発表し、一
九八四年に国際アンデルセン
賞を受賞。二〇一二年に文化
功労者に選ばれ、一一一二
五七六へ。(渡辺健太)



思い思いに、ちぎり絵をつくる児童ら



五箇山和紙でアート制作

ブン太を探せ!

教えてくれたのは木版画家の藤作農啓一さんと陶造形作家の藤

【webunに写真3枚】

員会と市福光美術館が、有名な地元の五箇山和紙を使って、昔ながらの文化に親しんでもらうと聞いてくれたぞ。こども55人がお父さん、お母さんに手伝つもらつてつくつていたよ。夏休みの思い出になつたんだろうな。

完成した作品は、8月13、28日に同美術館で開かれる「なんとの子どもたちが描く和紙アート展」で紹介する。入賞作品14点を選び、初日に表彰式を行う。北日本新聞社後援。

児童らちぎり絵や切り絵

？ 紙を細かくちぎり、貼り付けて描く絵のことだよ。

南砺きのう30日、南砺市東中江（平）の五箇山和紙の里と、たいらマウンテンスクールで「アートコングル」が開かれると聞いて、オイラも見てきたぞ。市内のアートで遊ぼう実行委

ちぎり絵って知ってる？ 紙を細かくちぎり、貼り付けて描く絵のことだよ。などと和紙を指でちぎって貼り付けてたよ。できたのは海辺の虹や花火、クジラ、ヒマワリ。緑色の和紙でヒマワリの葉をつくりたり、紙を重ねて浮かび上がるよう工夫をしていて、みんな上手だったな。ほかにも切

井一範さん。こどもたちは自分で作った和紙の上に、緑や青色などの和紙を指でちぎって貼り

五箇山和紙使い
児童が夏アート
福光美術館

富山県南砺市の小学生が
自ら手書きした五箇山和紙
を使い、ちぎり絵や切り
絵、にじみ絵を作った「和
紙アートコンクール in な
んと」が、同市福光美術館
で開かれている。入場無
料。二十八日まで。

コンクールは市内の美術
関係者でつくる実行委員会

が主催し、五回目。作品は
児童五十五人が七月三十
日、同市東中江の五箇山和
紙の里で紙すきを体験し、
作品を仕上げた。

画面構成・安田理恵



並ぶ会場 富山県南砺市福光美術館で

和紙で仕上げた卵形のオブジェなどが
親と協力して
作った卵形の
オブジェも目
を引く。
(渡辺健太)

棟方作品でまち元気に

戦時中、旧福光町に疎開していた板画家棟方志功が（一九〇三—七五年）の命日に・愛染忌（九月十三日）にちなみ、第一回棟方まつりが南砺市で始まった。十日には、田中幹夫市長が

南砺でまつり

五月に青森市で第一回が開催された棟方志功サミットの誘致など、芸術文化のまちづくりに強い意欲を示した。

サミットは南砺市の関係者が棟方の出身地・青森市に提言して実現。上京後に住んだ東京都中野区、晩年を過ごした杉並区、支援者がいた岡山県倉敷市もメンバーに入っている。

石井さんが「サミットは期待を超える素晴らしいだった」と述べたのに對し、

市長、サミット誘致に意欲に致しました

田中市長が「そこが棟方さんのか。その土地、その土地にファンがいる」と述べ、来年の中野区に続く、二〇一八年の第三回誘致に



田中幹夫市長　南砺市
法林寺の福光美術館で
孫で棟方の研究家・井
輪暢子さんと対談する

力を入れる考えを示した。会場からは「棟方作品には人を元氣にする力がある。まちおこしにつなげていける」「棟方がこの地から得たもの、残したものの大にじていただきたい」と賛同の声が上がった。

対談に先立つ記念講演では、石井さんが福光時代の作品「瞞着川板画卷」を例に装飾的な文字と絵との組み合わせの表現法の変化を紹介。「福光は棟方の成長、円熟の地」と述べ、生涯でたた一人、刷りを任せることなども理由に挙げた。

まつりは今春に市内の棟方関連の十二団体が集めて発足した連絡協議会が企画。十三日まで棟方の福光での足跡巡り（有料）があるほか、資料館で同日、法要がある。市中央図書館、同美術館、ゆかりの光傳等では特別展示を開催中。問い合わせは南砺市観光協会

電0763（62）12011へ。

（山森保）

10代のひょうふん 優れた技を伝えた

福光美術館



南砺市福光美術館の常設展示が7日から一新され、福光地域出身の日本画家・石崎光瑠が10代で描いたとされるひょうぶ「富山湾真景図」がお見えした。精密に描かれた波や立山連峰の風情から、幼少の頃の優れた技巧と画業の原点がうかがえる。

石崎光瑠 画業の足跡紹介

石崎は華麗な花鳥画で知られる。ひょうぶは高さ173cm、幅346cmの2点の組み合わせで、7月に購入してから7月に贈りてから約1年が立ち並ぶ高岡市伏木の海岸沿いなど、海の向こうに能登半島が見える雨晴海岸の風景が描かれ、立山連峰をバックに、

年ごとの制作され、「光瑠」の号を受けた直後の14歳にある。

色鮮やかな花の間を飛び交うイソコを描いた1919年(大正8年)の帝展特選作品「煙雨」など円熟期の作品9点も並び、作家としての足跡も浮かび上がる展示内容となっている。片岸昭二館長は「石崎の画業にもっと光を当て、魅力を発信できたらいい」と話している。

福光地域に陳開していた板画家、棟方志功が仏教学者の宿葉是本能則感應道交」を書き入れたすまなども合わせて展示され、真宗王國の風土と絡む志功の精神性を伝えていく。

福光美術館は定期的に常設展示作品を入れ替えており、今回の展示は12月12日まで。

趣ある書・日本画一堂に

南砺 南砺市城端出身の谷聰泉（1898～1939年）が残した書や日本画、篆刻を紹介する企画展が17日、同市福光美術館で始まった。谷が一流の文化人と交流する中で磨いた感性が映し出された123点を一堂に展示している。10月30日まで。

谷は図案家を志し、14歳以降、主に京都や東京で活動。石井林響や菊池契月らに日本画を学んだほか、中村不折、園田湖城の下で書や篆刻の研さんを積んだ。

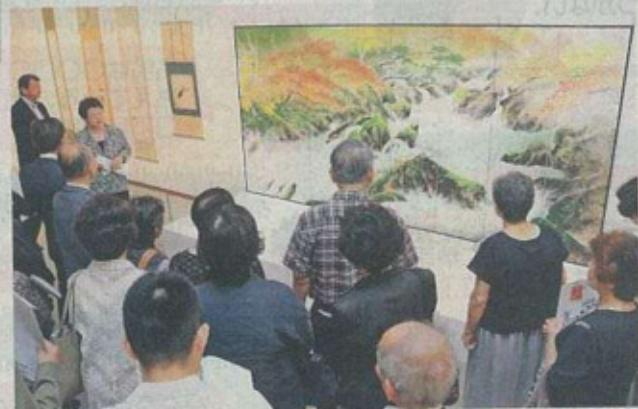
企画展は南砺市と同美術館が「なんとの至宝展」の第5弾として開催。奥入瀬川（青森）と紅葉した岸辺の木々が描かれた八曲一隻のびょうぶ「奥入瀬秋景」や、古風で素朴な趣のある書、篆刻に来場者がじっくりと見入っていた。

初日は展示の企画委員でCOSMOS書会代表の

企福光
画美術
館

谷聰泉（出城端出身）を紹介

「奥入瀬秋景」を鑑賞する来場者



上田北山さん（同市城端）が谷の魅力について講演した。

上田さんが講師を務める篆刻ワークショップが10月2日に、ミュージアムセミナーが9日に行われる。企画展は北日本新聞社後援。

うアドバイスしたことを紹介。「この考え方は現代の書などにも通じる。面白ばかり追求するのではなく、基本から学ぶことが大切」と訴え

た。企画展は30日まで、日本画なども含め123点を一堂に展示している。北日本新聞社後援。

南砺 谷聰泉の書や篆刻の企画展が開かれている同市福光美術館で9日、ミュージアムセミナーがあり、谷を研究している上田北山さん（70）＝同市城端＝COSMOS書会代表が谷の創作活動に対する考

え方を紹介した。上田さんは、谷が年下の友人に宛てた手紙で、中国の篆刻について学ぶ際、最初から「清代最後の文人」と称される呉昌碩の研究に飛び付くのではなく、秦や漢の時代のものから学び始めるよ

書は基本が大切

福光で上田さん（COSMOS書会代表）の教え紹介



谷聰泉について語る上田さん

にしひがし

二月
18

19日に南砺市福光美術館で開幕する市美術展の審査結果が発表され、日本画部門の大賞に吉田外之さん（開発）の「水郷」、洋画部門の大賞に宮崎邦昭さん（福光）の「静謐な午後」が選ばれた。

6部門に招待、委嘱作品を含め302点が展示される。彫刻は藍原伴治郎さん（井波）の「大志を求める」、工芸は中河清さん（野尻野）の「象嵌大壺」アステカの月」、書は富田一象さん（天池）の「霜葉」、写真

大賞に吉田さんら

南砺市美術展
福光、あす開幕



工芸部門・中河さん の「象嵌大壺『アステ カの月』」

日本画部門・吉田さんの
「水郷」



A traditional Japanese street scene, likely from Edo (Tokyo). The view is down a narrow, paved path lined with traditional wooden houses (engawa porches) and stone walls. The architecture features dark-tiled roofs and light-colored wooden frames. In the background, more buildings and trees are visible under a clear sky.

晨曉
夜魚山雨濤

書部門・富田さんの「霜葉」

彫刻部門・藍原さんの「大志を求める」

は金谷興治さん（吉江中）の「静寂」が選ばれた。美術展は27日まで開かれ
る。大賞以外の入賞者は次の皆さん。

◇日本画	▼市展賞	北田登美子(山口)
片山ちえ子(荒木)	▼獎勵賞	高橋晴美(利波河)
山田由美子(日町)	菊地仁美(山口)	見山田政成(德成)
吉江中秋(吉江中)	菊華賞	安月(同)
七山蒼(南砺福光高3年)	江川雅章(苗島)	◆洋画
山田由美子(日町)	山田新菜(南砺平高2年)	▼市展賞
木堅友美(庄谷)	古井覺(野尻野)	江川雅章(苗島)
南砺福光高3年	▽ほっど・	アート賞
(同)	▽はっど・	中島みやざき(南砺福光高2年)
河合梓紗(南砺福光高3年)	▽はっど・	大浦有夏(同)
(同)	▽はっど・	澤菜月(同)